



2023年度年末手当

NO. 2

2.65ヶ月+50,000円  
こんなに低水準な金額になったのはなぜ??

## その2 経営側に利用される「社友会」の存在

2018年に親睦団体として誕生した「社友会」ですが輸送サービス労組と会社との申38号 2023年度夏季手当不足分の追加支給を求める団体交渉の中で「社友会」に金銭的補助をしていることが明らかになりました。会社からバックアップを受けている「社友会」では現場の意見や想いなど会社に届くわけがありません。「社友会」は少なくとも2023年度の夏季手当及び年末手当について経営幹部と意見交換をしていますが、皆さんご存じの通りコロナ禍から脱却し黒字経営になったにもかかわらず、現場社員に対して微々たる還元しか行っていません。輸送サービス労組の団体交渉の中で会社は「±5万円はありがたい」「融合と連携を評価してもらった」「社員等しく声は聴いている」と会社は述べています。どこにそんな声が出ているのでしょうか？右の写真2枚は年末手当交渉の回答を行った直後の仲間の声です。どこにもそのような声は出ておらず肯定的な「社友会」の意見のみしか会社は耳を傾けていないのは明らかです。皆さん騙されてはいけません。今の労働市場はどこも労働力不足で売り手市場です。このまま生産性向上ばかり目指し「ヒトに投資」しない会社へ突き進むとさらに仕事量だけ増え、賃金が上がらない状態が出来上がってしまいます。私たちの未来は私たちがつくり上げるため、今こそ「社友会」と決別しなければいけません。

「ヒトに投資」しない経営方針に  
服従する「社友会」では  
賃金向上はあり得ません!



本部情報97号、99号、100号に  
仲間の声が記載されているが  
会社回答に肯定的な声は一切なし!

「心豊かな生活」と「仕事と家庭生活の調和がとれた働き方」

輸送サービス労組と共に目指そう!